



▲徳川家康の長子・信康公の供養塔

専称山・西念寺は、一五九三年（文禄二年）麴町・清水谷に、服部半蔵正成により開山されました。服部半蔵は徳川家康の重臣で、槍の名手、忍びの達人として知られております。家康には築山御前との間に武勇に勝れる長子・信康がいましたが、それゆえに織田信長の目を引く所となり、信長は愛娘

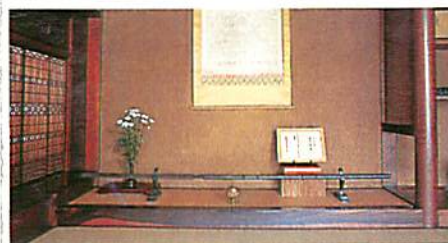
を嫁かせ、一族とし、二女がありました。しかし、それでも織田家は信康への警戒心を解くことができず、噂にすぎぬ信康の乱心を理由にその義父でありながら信長は、信康の切腹を家康に要求してきました（この時二十一歳）。家康は断腸の思いで天下人・信長の非情な命令に従い、最愛の子に切腹を言い渡しました。その介錯を任せられたのが服部半蔵でしたが、いかに主君の命とはいえ、ついにその手を下すことができなかった半蔵は、このことから世の無常を感じ、また信康の冥福を祈るため仏門に入りました。一五九〇年（天正一八年）家康は江戸に入り江戸城を築き、幕府を置くことになりましたが、半蔵も主君に随伴しましたが、信康の壺を弔うため剃髪し、名を西念と号し麴町清水谷に庵居を設け、遠州以来捧持していた「専称院殿安養西念大禅定門」



▲服部半蔵（石見守正成）の墓

信康の遺髪をそこに埋めて専称念仏の日々を送りました。一五九三年（文禄二年）半蔵は家康より、信康の壺および徳川家忠魂の冥福を祈念するため、一字建立の内命を受け、金五百両を賜ったと記録されておりま

す。しかし、寺院建立を果たさず、文禄四年十一月十四日、五十五歳で逝去しました。法名は、その後、同所に一字の建立がなりましたが、山号と寺名はこの法名からとり、「専称山・安養院・西念寺」となりました。一六三四年（寛永十年）幕府の政策により、江戸城・外濠の新設工事のため全ての寺院の移転が命じられ、現在地に移りました。一六四五年（昭和二十年）戦火で全焼しましたが、昭和三十六年十一月、本堂を再建しました。また、平成四年十一月、客殿および会館が新築されました。



◀服部半蔵が徳川家康より拝受した寺宝の櫛（先端30cm、矢尻150cmを昭和20年の戦災で損壊しましたが、それでも全長258cm、重量約7.5kgの堂々たる存在感を漂わせています。昭和63年に新宿区文化財の認定を受けております）



●JR中央線「四ツ谷」下車
●地下鉄丸の内線「四ツ谷」下車
いずれも新宿通りを新宿方面へ徒歩。ルネ四ツ谷ビル角を左折し、突き当り。（駅より約500m、約7分）

●所在地●

〒160 東京都新宿区若葉2-9
TEL (03) 3351-0662
FAX (03) 3356-6751



浄土宗
専称山
安養院

西念寺

本堂

客殿

会館



▲会館：ホール(1F)



▲客殿：玄関



▲客殿：和室



▲本堂



西念寺は徳川家康の長子・信康の冥福を祈るため、家康の命により、その重臣・服部半蔵正成が開山しました。専称山の山号と、西念寺の寺号は、いずれも服部半蔵の法名の中からとられ、銘じられています。

●浄土宗とは

宗祖：法然(ほうねん)上人
開宗：承安五年(鎌倉時代)
本尊：阿彌陀如来
称名：南無阿彌陀仏
経義：釈迦によって説かれ
無量寿経、観無量寿
阿彌陀経

●年中行事

- 一月：修正会(正月法要)
…御总会
- 二月：涅槃会
(法然上人忌日法要)
- 三月：彼岸会
- 四月：花祭
- 七月：盂蘭盆会
大施餓鬼会
- 九月：彼岸会



●主な施設

当寺は総面積一千五百坪を
し、本堂、客殿、会館をそ
ぞれ三棟に配し、墓地と駐
場が備えられています。
本堂には本尊・阿彌陀如来
祭られ、日々の修業と祈念
場となっております。
会館は葬祭等の仏事をはじめ
宗旨・宗派の分け隔てなく
広い用途のご利用が可能です。

